

## まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：福祉分科会（第4回）

開催日時：平成21年10月16日（金）9時00分～12時30分

開催場所：新館7階 大会議室

出席委員：海老原 寛子（分科会長）、鎌田 啓作（副分科会長）、荒 久美子、  
三木 京子、古宮 保子、峪 二葉、百田 清美、村島 隆一、細  
田 香苗、石井 久雄、林 総太朗（敬称略、順不同）

欠席委員：文入 加代子（敬称略）

事務局：伊東 朱美、久富 博之（政策調整課）

### 【会議内容】

#### ■分科会会長挨拶

- ・次回はいよいよ発表することになるので、今日も頑張って議論できればと思う。よろしく願いたい。

#### ■前回分科会の議事録の取り扱いについて確認

- ・修正なしとして委員は賛成し、議事録を確定した。

#### ■本日のねらい：「市民と行政それぞれの役割」と「指標」の作成

- ・前回まとめた「目指したい姿」の実現に向けて、市民と行政がそれぞれどんな役割を果たしていったらいいのかを検討する。
- ・また、そうした役割を遂行していくことで、最終的にどんな状態に達したいのかを「指標」という形で表わし、提言していく。

#### ■話し合いのルール

- ⇒全ての意見に価値を置く
- ⇒人の話をよく聴く
- ⇒想いや考えは全体で共有する
- ⇒時間厳守
- ⇒未来に焦点をあてる

■チェックイン：「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

## ■ 「目指したい姿の宣言文」の内容・確認

(※第3回分科会会議録の別紙1参照)

まず前回の宣言文を確認したが、以下のような意見があった。

### 政策3

- ・前回検討した「目的」、「手段」、「成果」を無理にくっつけた感がある。  
→確かに、そのために全体的に文が長く読みづらい。
- 市民に向けてのメッセージの意味もあるから、文章を読み慣れていない人でも読みやすいよう、全体的に短くしていった方がいいのでは。
- ・「一日を過ごす」という言葉は、「目的を持って」過ごすからこそ重要なわけで、その言葉自体は削除してもいいのではないか。
- 「暮らし」という言葉があるから、「一日を過ごす」の意味は入っており、確かにそのとおりだと思う。
- ただ、毎日目的を持った暮らしをするという意味では重要なので、その辺のニュアンスが発表で伝わるようにしたい。
- また、できればそのニュアンスを役割分担のところできれい落とし込んでいければいい。

### 政策4

- ・前回宣言文を2つ作ったが、これは専門的な人にできるものと一般市民にできるもの、という考え方だったと思う。
- 専門的な役割は、どちらかといえば行政の役割に入ってくるから、そう考えればこれは行政と市民の役割分担を意識して作られている、とも考えられる。2つを一緒にして、具体的な内容を「市民の役割」と「行政の役割」に落とし込んでいったらどうか。他の分科会ではそういう所もある。
- そうすれば、文章の最初と最後の部分は一緒だからすぐにできるし、その方がわかりやすい。
- 「ご近所のネットワーク」がキーワードになるが、それは後で議論する「市民の役割」、「行政の役割」のところで入れていけばいい。
- ・「どう生きるか」、「どう老いるか」の部分は市民の大事な役割。前回の話では、これは基本的な生き方にかかわる部分で、政策3～6の全てにかかるものになるということだった。
- 初めにあるとちょっと文章としてぎごちない気はするが、インパクトはあるし分科会メンバーが皆重要と考えている。
- 大事なことから市民にも行政にも考えてもらうために、そのあたりの重要な語句は残した上で、宣言文を一つにしてみたらよい。
- ・「ご近所のネットワーク」は、市民がやることだが行政にも場所の部分などで協力してほしい。

## 政策 5

- ・「地域ネットワーク」と「地域ぐるみで支援する環境」という、同じような意味の言葉がある。前者は若干あいまいなので削除し、後者を残してはどうか。
- ・「生活スタイル」の言葉には、仕事の有無や仕事の形態など全て入ってくるわけだから、「仕事をもっている人でも」の部分は不要ではないか。
- 前回議論があつて、みんなが働ける社会を前提に宣言文を考えようとしたが、やはり働かない選択肢も認める必要がある中で、どんな人の子育ても支援しようという合意があつた。だから、仕事する人を特別に挙げるのは不要かもしれない。
- ・「専門性をもった人」とあるが、その前にある「選択できるサービス」は専門家がいることを前提にしているから、削除していいのでは。
- さっきと同じように、専門家の重要性は役割分担のところに落とし込むことにして、削ってよいと思う。
- そうするなら、「サービス」の前に役所や NPO や、いろいろな人に協力してほしいという意味で、「様々な」という言葉を入れたらいい。
- ・「子どもたちがあふれる」ということだと、政策名との乖離があると思うし、不幸な子供たちが街に出てくるような感じがあつて、変えた方がいい。
- 子どもは基本的にプラスの言葉だし、この政策である子育てがちゃんとできたら、子どもが街に帰ってくるという意味をこめていると思うが。
- ただ、確かに「子どもたちが」「あふれる」だと、あまりいい語感ではないかもしれない。「子どもたちの『笑顔』があふれる」がいいのではないか。

## 政策 6

- ・「開業している病院」とあるが、「開業」しているのは公立でも民間でも当然。
- 前回のイメージとしては「開業医」との連携ということがあつたが、確かに言葉としては不要かもしれない。
- ・介護保険を受けている人が、入院すると医療保険の適用に変わる。特に認知症の人などが、この間でたらい回しになることがあり、この二つのはざまを何とかしたい。宣言文の問題意識として盛り込めないか。
- 確かに病院同士だけでなく、病院と社会福祉施設、介護施設の連携もこれからは重要になってくる。入院している人はずっと入院しているわけではなく、そこから様々な施設に移ることも多いから。市立病院単体では完結しない部分がたくさんある。
- 医療と介護の連携も視野に入れて考える必要がある。
- 「地域医療の連携」は「行政の役割」に入れて、福祉施設等との役割分担・連携を宣言文に入れてはどうか。
- がん患者のケアなど、在宅でどう生きていくかという部分も含め、目に見な

- い障害を持つ人へのケアも重要になるので、賛成できる。
- ・病院ボランティアは、患者の案内とかちょっとしたお世話とか、病院内の活動に限定されている。病院外の部分にはシステムとしてできていない。
- 前回合意したところで、市民が病院を支えていくためには、そういうシステムはあった方がいいのではないか。
- ・生意気な言い方かもしれないが、経営の安定が望ましい。
- 確かにそうだが、国のシステムで赤字が多く出るようになってしまった。今回の政権交代もあるので、その動向次第で難しいところもある。
- その意味では、今回の宣言文とは遠いところの議論になってしまう。
- ・市立病院は「地域の核」となることが必要。ハブ空港のようなもの。
- 前回も出たが、やはり患者をきちんと症状に応じて振り分けるのが、市立病院の大事な役割ではないか。本当に必要な人が使えるようにしないと。
- その通りだが、市民のコンセンサスが取れなくて難しい。コンビニ医療と言われて問題になっているのも周知の事実。
- 市立病院は創設の経緯からして地元医療とうまく連携してきているし、これからもそうなければならないと思う。

#### ■事務局より「市民と行政それぞれの役割」について説明

- ・「市民と行政のそれぞれの役割」とは、目指したい姿の宣言文を実現するために、市民と行政それぞれがどのような役割を担い、どのように関わっていくのかを指針としてまとめたもの。また、市民と行政に期待したい「想い方」「行動（取組み）などを具体的に示したものと言える。
- ・「市民と行政それぞれの役割」を検討することで、今後市民と行政が目指したい姿に向けて施策を検討したり、サポートを行ったり、協働する際の指針を明らかにする
- ・「市民の役割」については、目指したい姿の実現に向けて、市民の役割として、期待される態度や行動（取組み）にはどのようなものがあるかを検討する。
- ・「行政の役割」については、目指したい姿の実現に向けて、市民の役割として、期待される態度や行動（取組み）にはどのようなものがあるかを検討する。

#### ■事務局より、「指標」についての説明

- ・「指標」とは、政策ごとに作成した「目指したい姿の宣言文」の達成状態を表すための尺度のことを指す。あるいは、「市民と行政のそれぞれの役割」を推進することで、高めていきたいこととも言える。

■事務局より、指標を検討するねらいの説明

- ・目指したい姿の達成イメージを指標として表すことで、より明確になる。
- ・目指したい姿を実現するために、具体的に何を行っていけばよいかを検討しやすくなる。
- ・指標があると、それに照らして、政策がうまくいっているか、いないかが理解でき、進行状況を確認できる。

■「市民と行政それぞれの役割」と指標を検討するための素材（アイデア）を個人で検討（個人でポストイットに記入する）

- ・「目指したい姿の宣言文」を実現するために、市民と行政にどういう意識をもって、どういう行動をしてほしいかを考え、「市民の役割」、「行政の役割」として検討する。
- ・それらの「市民の役割」「行政の役割」を果たしていくことで、何が高まっていったらいいのかを考え、それらを「指標」として表す。

■作成した素材を全体で共有（ポストイットを模造紙に貼る）

■作成された「市民の役割」、「行政の役割」、「指標」の素材を眺め、感想や質問等を通じて対話

政策3

「行政の役割」

- ・場づくりというのは、空き商店とかで人の集まれる場所がほしいということ。  
→図書館で毎日将棋や囲碁をやっている男性がいて、そういう人たちにも場所を作ることは図書館のためにもなる。
- そうすると、「遊び場」というのは子どもではなく大人の遊び場ということ。
  - ・「老いや死のモデルを提示し…」というのは、例えば老後にこういうことが起きるといふ情報提供とか、モデルというより老いや死を考えるための材料を提供してほしいということ。
- 女性の場合少し違うかもしれないが、男性の場合は定年で仕事を辞めてから、新しい人生をどう生きるかサポートがほしい、という意味もある。
  - ・コミュニティバスの話は一般論としてはうなずけるが、この政策だと「健康」がテーマなのでどうか。歩かないから逆に不健康になるかもしれない。
  - ・「長期的に社会参加がしやすいように」というのは、公民館の事業など数ヶ月単位で終わってしまうものが多い。もっと長期的にしてもらえれば根付くし、始めた市民も定着するのではないか。
- 市でやっているものは予算の関係があるから、難しいところもあるが。

・市民活動がたくさんあることを、市民に知ってもらう場がほしい。それによって、市民がいろいろな活動に参加できるし、交流できる。

→確かにそうだが、やはりこの政策は「健康」だから、ふさわしいかどうか。

→そういう発表の場として、サポートセンターと社会福祉協議会が行っているものがあるが、互いに混じらないのが問題。

→市民の主体的な意識が少ないし、市民も行政に合わせて縦割りになっているところがある。

・「地域」という言葉のイメージはかなり幅広いが、どれくらいの大きさを想定しているのか。

→この場合徒歩圏くらいなので、行政の中学校区くらい。

・前回の会議でも合意したと思うが、この政策は市民が主役となる部分だから、行政は仕組み作りが基本になるだろう。

・健康づくりのための公園の整備を入れたいと思う。

→公園を活用して健康づくりを行う、ということにすればこの政策に当てはまると思う。結論が「公園の整備」になると、別の分科会のテーマになってしまうので。

→確かに、そうなる तोこれは行政の役割というより、市民の役割かもしれない。

「指標」

・「人の集まる場の数」というのはどうか。

・「立場や背景の異なる人たちと交流した数」というのはどうか。いろいろな人と交流することは、生きがいを持つための第一歩だと思う。

→そうすると、そこに情報も集まるから情報拠点にもなりうる。

・「地域で生活する意識」は、サラリーマンを中心とした「松戸都民」を意識して入れた。

→これに関して言えば、いわゆる自宅で引きこもって社会活動に参加したことのない人の、地域活動への参加数も指標にしてみたい。

・「市民団体からの提案件数」とあるが、これだけだと「健康」に関係しなくなってしまう。

#### 政策4

「市民の役割」

・宣言文を一つにまとめた時に削った、「ご近所ネットワーク」に相当する概念がないと、その想いが活かせない。

→この分科会で何度も出たが、市民同士が周りの人を気遣って助け合うことは、健康維持の面でも重要。そのためのつながりが、「ご近所ネットワーク」であることを確認しておきたい。

→ネットワークができて初めて、「ヘルプ！」を外に出すこともできるし、周り

の人が協力することもできる。

#### 「行政の役割」

- ・政策3でもあったが、「健康」との結びつきが弱く、一般論になっているものがある。

→そういう表現は、健康を意識したものに手直しした方がいい。「コミュニティバス」の話は、健康な人を対象にした政策3には適切でなかったが、ここではふさわしいと思う。

- ・「バリアフリー」、「コミュニティバス」、「外出マップ」は市民の外出を支援する、という点が共通している。

#### 「指標」

- ・「自立した生活」は生活保護の問題とも関係するから、指標に「生活保護の人数減少」を入れたらいいのではないか。

### 政策5

#### 「市民の役割」

- ・「高齢者の子育てサポート」とあるが、あまり高齢だと子どもに好かれない、子どもは若い人の方が好きだと思う。また、子ども嫌いな人もいるので、それほど役に立たないかもしれない。

→ただ、若い人からすると経験豊かな高齢者に期待はあると思う。

→今は異世代交流がないから、よけい子ども嫌いの高齢者とか、そういうことが起きてくる。交流を増やすためにも、子育てサポートはいいこと。

#### 「行政の役割」

- ・「子どもが遊べる公園マップ」は、子育て情報の積極的発信くらいにしてはどうか。公園マップになると、公園の所管は公園緑地課ということで、この政策とずれてきてしまうので。
- ・今の親たちに、自分だけで子育てする意識をやめてほしい、自分を追い込まないでほしいと切に思う。そのためのサポートを行政にお願いしたい。
- ・病児・病後児保育の充実は切実な問題だと思う。

#### 「指標」

- ・「駅近くの保育所数」とあるが、「駅近く」がふさわしいかどうかというと、賛否両論。駅前だと地価が高いから広さが限定されるなど、子どもにとって様々なデメリットがあるから。

→普通に「保育所の充実」なら、皆が合意できるのではないか。

### 政策6

#### 「市民の役割」

- ・「市立病院の役割を理解し、上手に利用する」と、行政の役割にある「情報提供」はセットで考えていかなければならない。

→確かに、普段健康な人たちは病院を意識しないから、市立病院の情報には関心を持たない。そこをどう意識してもらうかが、大きな課題だろう。

→宣言文でも確認したが、市民が病院をきちんと使い分けられるようになるため、市民も行政も協力していく必要がある。

#### 「行政の役割」

・今はお金がないので医者や看護師だけで精いっぱいだが、確かに医療コーディネーターの役割はとても重要になる。

→コーディネーターの役割は、宣言文に入れた医療機関と福祉サービス等を連携する際、要になるものだと思う。

・ポストイットを見ると、病気になった市民に対するものと、なる前の市民に対するものが必要という気がする。

→そうすると、特に後者の方では市民が主体的に情報を受け取ったり、行動したりすることが重要になってくる。

→市民の主体性は特に強調したいので、市民団体の数とかサービスの数を指標に入れたい。

■「目指したい姿の宣言文」「市民と行政のそれぞれの役割」「指標」の3つの枠組みでは表現しきれないが、とても重要で、ぜひ全体に対して提言していきたいものを「強調したい・伝えたい・具体的な提案・メッセージ」として検討

・市民と行政の役割、指標の中でかなり具体的なものが多く出ているので、当日の発表で分科会長に託すことに決定。

#### ■第5回分科会兼第2回全体会の確認

・日時：平成21年11月7日（土）14～18時

・場所：松戸市商工会館 5階ホール

・目的：各分科会で検討してきた内容を全体に発表し、未来づくり会議の提案とすること。また、発表内容について、他のメンバー、市民、行政職員からのフィードバックを受けて、検討する機会ともすること。

#### ■チェックアウト

#### ■分科会会長あいさつ

皆様から教えていただいたことが多く、この分科会に参加できて本当によかったと思う。次回はみなさんに知り合いを連れてきて頂けると、この会議の意味がより広がると思うので、よろしく願いしたい。



- 別紙 1 福祉分科会成果品（案）
- 別紙 2 福祉分科会（第 4 回）検討経過資料

以上

目指したい姿の宣言文:

自らの健康に関心を持ち社会参加することを通して、一人一人が目的を持った生きがいのある暮らしを生み出す

## 市民の役割:

- 地域で生活する意識を持つ ●地域ごとの場づくりとグループづくり
- 商店の活性化を図り、会話のはずむ店を作る ●目的、関心など共通するグループ作り
- 特技、趣味を生かした社会参加 ●市民一人一人が自分の健康を自覚する
- 自分がどう生き、どう老い、どう死ぬかを常に意識し検証する
- 健康づくりに公園を活用できるようにする ●個々の現状に合った運動の継続(グループ等で)
- 「他の人を助ける」ことが、自分をも助けることになるという考えにたち、生活する

## 行政の役割:

- 老いや死のモデルを提示し、それを実現するサービスを提供する
- 住民の自治活動を支援する
- 地域の活動を発表できるネットワークづくり
- 長期的に社会参加がしやすい施策を考える

健康づくりに  
関する「場」

- 地域ごとに居場所の核(拠点)をつくる
- 無料の遊び場(たまり場)をたくさん提供する
- 交流の場・ネットワークの情報発信

## 指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 健康づくりに関する市民団体からの提案数(助成事業の実施)
- 人が集う場の数
- 多様な世代との交流の場の数(生きがいのある暮らし)
- 東京で働いていた人が(特に男性)、地域の活動に参加する人数
- 医療費が少なくなる

## 政策4: 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにする

目指したい姿の宣言文:

どう生きたいか、どう老いるかを考えて、個人の尊厳を保ちながら生きるために、誰もが不安なく自立した生活を送れるようにする

市民の役割:

- ご近所ネットワークづくり ●子育てを楽しめるよう、主婦(夫)も地域デビューする
- 地域ごとに年齢、職業が様々な人々と生き方・老い方を話し合う場づくり
- ご近所さんの子どもや、色々な方たちと日ごろから挨拶などをし、気軽な人間関係をつくる
- 積極的に人と関わる
- 生き方、老い方を考え始めたとき、社会デビューをし発信する
- ヘルプ! の情報を外に出す ●周囲からのSOSに適應できる生活態度を!

行政の役割:

- 適切な支援(専門的なサポート) ●ウィズエイジングの考え方を広める
- 生き方、老い方フォーラムの開催 ●自立支援サービスの窓口を地域に設置する
- 病気等になった時(日常生活が困難)、どのような手順でサービスをどこで受けられるかを明示し、市民に宣伝する
- シミュレーションをつくり広報等に掲載する

外出しやすいサポート

- ・バリアフリーの計画
- ・コミュニティバスを運行させ、外出を促す
- ・外出をサポートするマップの作成

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 訪問医療の充実とその情報
- ホームドクター(かかりつけ医)を持つ人の割合
- 引きこもりの人数(減)
- 生活保護者数(減)

## 政策5:安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにする

目指したい姿の宣言文:

子どもの笑顔があふれる街にするために、生活スタイルにあわせて選択できる様々なサービスや地域ぐるみで支援する環境を整え、子育てできる松戸を実現する

市民の役割:

- 子どもの面倒を見る。家事のサポートができる等の、自分のできる役割や時間を登録しておく
- 社会の子どもとして、宝物として愛情を持って大切に産み育てる
- 子育てを楽しめるよう、主婦(夫)も地域へデビューする
- 緊急時のちょこっとボランティア等(おむかえ) ●多様な世代の人々との交流
- 子どもの安全が保たれるように、地域の高齢者の助けを借りる
- 家庭一女性が外に出やすいように家族ぐるみで協力する

行政の役割:

- 市民が提供できる役割を把握し、地域の連携がうまくできるように、コーディネーターの役割をする
- 地域の連携がうまくできるように、コーディネーターの役割をしてほしい
- 病児・病後児保育の充実 ●子育て市民団体のアイデア募集とコンテスト、その支援

- 地域の子どもとふれあえるイベント・フォーラム
- 全ての子ども達が平等にその子の夢が実現できるようサポートする
- 全ての子ども達に権利と義務を教える(社会的に)

- 子育て情報のわかりやすい、積極的な発信をする

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 出生率の向上
- 病児保育できる場所の数
- 保育所の数
- 市民団体が提供するサービスの数、団体の数

## 政策6:市立病院として高度で良質な医療を提供する

目指したい姿の宣言文:

**地域の医療機関や社会福祉サービス、市民ボランティアと連携し、役割を分担し、地域医療の核として、高度で良質な医療を提供する**

市民の役割:

- 誰もが利用しやすい市立病院になるよう、様々な市民活動が協力する
- 患者さんの補助 ●子どもの一時的保育 ●送迎(コミュニティバス等) ●病院環境の整備
- 税金をしっかりと払う ●近所の病院を知り、利用する(地域で主治医をもつ)
- 市立病院の役割を理解し、上手に利用する

-----  
行政の役割:

- 退院時、その後の暮らしの指針をはっきりと(コーディネーター役)
- 安定した病院経営をする ●必要な資金や人材の確保 ●効果的なネットワークの構築
- 患者サービスの向上に取り組む市民活動と協働する ●在宅医療を推進する
- 情報提供 ●中核病院として市民に説明し、理解を得る

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 病院を出た後の方向性を指針するコーディネーターの数を増やす
- 病院情報のわかりやすい情報提供(どこへ行けばよいか、何をすればよいか事前に)
- 患者数(入院・外来)
- 「紹介・逆紹介率」 ●患者満足度
- 手術件数 ●収益率
- 市民団体が提供するサービスの数、団体数

目指したい姿の宣言文:

自らの健康に関心を持ち社会参加することを通して、一人一人が目的を持った生きがいのある暮らしを生み出す

## 市民の役割:

- 地域で生活する意識を持つ ●地域ごとの場づくりとグループづくり
- 商店の活性化を図り、会話のはずむ店を作る ●目的、関心など共通あるグループ作り
- 特技、趣味を生かした社会参加 ●市民一人一人が自分の健康を自覚する
- 自分がどう生き、どう老い、どう死ぬかを常に意識し検証する
- 健康づくりに公園を活用できるようにする ●個々の現状に合った運動の継続(グループ等で)
- 「他の人を助ける」ことが、自分をも助けることになるという考えにたち、生活する
- ・食生活の向上のため、買い物は自分で行く

## 行政の役割:

- 老いや死のモデルを提示し、それを実現するサービスを提供する
- 住民の自治活動を支援する
- 地域の活動を発表できるネットワークづくり
- 長期的に社会参加がしやすい施策を考える

健康づくりに  
関する「場」

- 地域ごとに居場所の核(拠点)をつくる
- 無料の遊び場(たまり場)をたくさん提供する
- 場・ネットワークの情報発信
- ・市民の活動を少しだけ経済的にサポートする

## 指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 健康づくりに関する市民団体からの提案数(助成事業の実施)
- 人が集う場の数
- 多様な世代との交流が増えた(生きがいのある暮らし)
- 東京で働いていた人が(特に男性)、地域の活動に参加
- 医療費が少なくなる

## 政策4: 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにする

目指したい姿の宣言文:

どう生きたいか、どう老いるかを考えて、個人の尊厳を保ちながら生きるために、誰もが不安なく自立した生活を送れるようにする

市民の役割:

- ご近所ネットワークづくり ●子育てを楽しめるよう、主婦(夫)も地域デビューする
- 地域ごとに年齢、職業が様々な人々と生き方・老い方を話し合う場づくり
- ご近所さんの子どもや、色々な方たちと日ごろから挨拶などをし、気軽な人間関係をつくる。積極的に人と関わる
- 生き方、老い方を考え始めたとき、社会デビューをし発信する
- ヘルプ! の情報を外に出す ●周囲からのSOSに適応できる生活態度を!

行政の役割:

- 適切な支援(専門的なサポート) ●ウィズエイジングの考え方を広める
- 生き方、老い方フォーラムの開催 ●自立支援サービスの窓口を地域に設置する
- 病気等になった時(日常生活が困難)、どのような手順でサービスをどこで受けられるかを明示し、市民に宣伝する
- シミュレーションをつくり広報等に掲載する

外出しやすいサポート

- ・バリアフリーの計画
- ・コミュニティバスを運行させ、外出を促す
- ・外出をサポートするマップの作成

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 訪問医療の充実とその情報
- ホームドクター(かかりつけ医)を持つ人の割合
- 引きこもりの人数(減)
- 生活保護者数(減)

※●は多数決で過半数の賛同を得たもの、・は過半数には達しなかったもの。

## 政策5:安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにする

目指したい姿の宣言文:

子どもの笑顔があふれる街にするために、生活スタイルにあわせて選択できる様々なサービスや地域ぐるみで支援する環境を整え、子育てできる松戸を実現する

### 市民の役割:

- 子どもの面倒を見る。家事のサポートができる等の、自分のできる役割や時間を登録しておく
- 社会の子どもとして、宝物として愛情を持って大切に産み育てる
- 子育てを楽しめるよう、主婦(夫)も地域へデビューする
- 緊急時のちょこっとボランティア(おむかえ) ●多様な世代の人々との交流
- 子どもの安全が保たれるように、地域の高齢者の助けを借りる
- 家庭一女性が外に出やすいように家族ぐるみで協力する
- ・高齢者の方が中心となり、育児相談のできる環境を作る

### 行政の役割:

- 市民が提供できる役割を把握し、即座に信頼できるコーディネートの仕事をする
- 地域の連携がうまくできるように、コーディネーターの役割をしてほしい
- 病児・病後児保育の充実 ●子育て市民団体のアイデア募集とコンテスト、その支援
- ・安く、住みやすい住宅の整備・誘導(公団、公営住宅など)

- 地域の子どもとふれあえるイベント・フォーラム
- 全ての子ども達が平等にその子の夢が実現できるようサポートする
- 全ての子ども達に権利と義務を教える(社会的に)

- 子育て情報のわかりやすい、積極的な発信
- ・ベビーカーでも楽しめるバリアフリーなまちなか整備
- ・子育て情報一子どもが遊べる公園マップづくり(市民グループとともに作る)

### 指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 出生率の向上
- 病児保育できる場所の数
- 保育所の数増加
- 市民団体が提供するサービスの数、団体の数

※●は多数決で過半数の賛同を得たもの、・は過半数には達しなかったもの。



## 政策6:市立病院として高度で良質な医療を提供する

目指したい姿の宣言文:

**地域の医療機関や社会福祉サービス、市民ボランティアと連携し、役割を分担し、地域医療の核として、高度で良質な医療を提供する**

市民の役割:

- 誰もが利用しやすい市立病院になるよう、様々な市民活動が協力する
- 患者さんの補助 ●子どもの一時的保育 ●送迎(コミュニティバス等) ●病院環境の整備
- 税金をしっかりと払う ●近所の病院を知り、利用する
- 市立病院の役割を理解し、上手に利用する
- 地域で主治医をもつ

-----  
行政の役割:

- 開業医やサービス施設を市立病院の分科団体にとらえ、病院を出た後の治療の方向を指針するコーディネーターを市立病院が担う
- 退院時、その後の暮らしの指針をはっきりと
- 安定した病院経営をする ●必要な資金や人材の確保 ●効果的なネットワークの構築
- 患者サービスの向上に取り組む市民活動と協働する ●在宅医療を推進する
- 情報提供 ●中核病院として市民に説明し、理解を得る

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 病院を出た後の方向性を指針するコーディネーターの数を増やす
- 病院情報のわかりやすい情報提供(どこへ行けばよいか、何をすればよいか事前に)
- 患者数(入院・外来)
- 「紹介・逆紹介率」 ●患者満足度
- 手術件数 ・検査件数 ●収益率
- 市民団体が提供するサービスの数、団体数

※●は多数決で過半数の賛同を得たもの、・は過半数には達しなかったもの。